

公立大学法人福知山公立大学業務実績評価書
【記入要領】

評価順序について

《順序1》小項目別評価

- 年度計画の記載項目(小項目)ごとに、下記指標により5段階評価
＜評価指標＞
 - 5:年度計画を大幅に上回って実施している
 - 4:年度計画を上回って実施している
 - 3:年度計画を概ね実施している
 - 2:年度計画を十分に実施できていない
 - 1:年度計画を大幅に下回っている
 - 法人の自己評価と評価委員の判断が異なる場合は、その理由を記入してください。
 - 判断が同じ場合は、原則記述不要。ただし、特筆すべき点等があれば、評価のポイント等を記入してください。
 - 法人の自己点検欄の記述だけでは評価することが難しい場合は空白でも可。ただし、評価に要する質問事項を別紙「質問票」により提出してください。
-

《順序2》大項目別評価

- 小項目別評価の「評価委員会による評価結果」欄の中で、評価できる項目(特筆する項目)を箇条書きで記入してください。
 - 小項目別評価の「評価委員会による評価結果」欄の中で、課題となる項目を箇条書きで記入してください。
- ※ 「評価」、「評価基準」、「評定平均」、「評価理由」は、評価委員会審議結果を踏まえ、事務局で記入します。
-

《順序3》全体評価

評価委員会審議結果を踏まえ、事務局で記入します。

【大項目別評価結果】

大項目	評価				
	S	A	B	C	D
	特筆すべき進捗状況である	順調に進捗している	概ね順調に進捗している	進捗が遅れている	進捗が著しく遅れており、重大な改善事項がある
教育研究等の質の向上に関する目標を達成するための措置 ①教育の質の向上に関する目標を達成するための措置			○		
教育研究等の質の向上に関する目標を達成するための措置 ②研究の質の向上に関する目標を達成するための措置			○		
教育研究等の質の向上に関する目標を達成するための措置 ③地域協働(地域貢献)の質の向上に関する目標を達成するための措置		○			
業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するための措置			○		
財務内容の改善に関する目標を達成するための措置			○		
自己点検・評価及び情報公開に関する目標を達成するための措置			○		
その他業務運営に関する重要目標を達成するための措置			○		
福知山市の規則で定める業務運営に関する事項			○		

該当箇所に「○」を記入
【評価委員会審議結果を踏まえ、事務局にて記入】

2 大項目別評価 《順序2》大項目別評価

第4 教育研究等の質の向上に関する目標を達成するための措置

1 教育の質の向上に関する目標を達成するための措置

■6つの大項目(8分野)

- (1) 教育研究等の質の向上に関する目標を達成するための措置
 - ① 教育の質の向上に関する目標を達成するための措置
 - ② 研究の質の向上に関する目標を達成するための措置
 - ③ 地域協働(地域貢献)の質の向上に関する目標を達成するための措置
- (2) 業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するための措置
- (3) 財務内容の改善に関する目標を達成するための措置
- (4) 自己点検・評価及び情報公開に関する目標を達成するための措置
- (5) その他業務運営に関する重要目標を達成するための措置
- (6) 福知山市の規則で定める業務運営に関する事項

評価	評価基準
B	中期計画の達成に向け概ね順調に進捗している。

評価平均
3.1

S~Dの評価結果を記入
【評価委員会審議結果を踏まえ、事務局にて記入】

(1) 評価理由

.....

.....

.....

.....

評価平均値を記入
【評価委員会審議結果を踏まえ、事務局にて記入】

小項目別評価結果を踏まえた評価理由
【評価委員会審議結果を踏まえ、事務局にて記入】

	項目数	5	4	3	2	1
		年度計画を大幅に上回って実施している	年度計画を上回って実施している	年度計画を概ね実施している	年度計画を十分に実施できていない	年度計画を大幅に下回っている
小項目別評価結果	36					
	構成比(%)	(0.0%)	(0.0%)	(0.0%)	(0.0%)	(0.0%)

小項目別評価結果の内訳を記入
【評価委員会審議結果を踏まえ、事務局にて記入】

(2) 概況

(評価できる点等)

○

○

○

小項目別評価の「評価委員会による評価結果」欄の中で、評価できる項目(特筆する項目)を箇条書きで記入。
【評価委員が記入】

(課題となる点等)

○

○

○

小項目別評価の「評価委員会による評価結果」欄の中で、課題となる項目を箇条書きで記入。
【評価委員が記入】

項目別の状況

第4 教育研究等の質の向上に関する目標

- 1 教育の質の向上に関する目標
 (1) 教育の成果に関する目標

小項目数
36

中期目標	教育研究において、地域、自国、そして世界に対する理想を持ち、教養・専門的知識を生涯にわたって学修し、それを実践する力を涵養する。 特に、地域協働型教育研究を通して、創造的思考力、課題解決力、協働・協調力、コミュニケーション力など、社会人に必要となる基礎能力を涵養する。地域社会そのものを教育の場としたフィールドワークやインターンシップに主体的に取り組み、地域の人や資源を教材とした教育研究を実践する中で、地域社会が抱える様々な課題解決に向け、関係者や関係機関等との協議調整、企画立案や提案を行うことができる人材を育て、地域社会に還元する。
------	--

中期計画	年度計画	法人の自己点検（計画の進捗状況等）		評価委員会による評価結果													
		計画の実施状況	評価区分	評価のポイント、委員会確認事項	評価区分												
第4 教育研究等の質の向上に関する目標を達成するための措置																	
1 教育の質の向上に関する目標を達成するための措置																	
(1) 教育の成果に関する目標を達成するための取組																	
《順序1》小項目別評価																	
<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 20%; vertical-align: top;"> ①自由な発想と行動力、分析企画力、実行力、公共マインドの涵養 大学の理念の実現と発展に必要な長期的な戦略を計画し、地域に根ざし、世界に通用する高い専門能力と多角的な視点を持ち、さらに、地域社会の様々な分野におけるニーズに対応した指導的役割を果たせる人材を育成するための自由な発想と行動力、分析企画力、実行力、公共マインドを涵養する。 </td> <td style="width: 20%; vertical-align: top;"> 1 現行カリキュラムを見直すとともに、教育成果の測定方法を検討する。 </td> <td style="width: 20%; vertical-align: top;"> 現行のカリキュラムについてディプロマポリシー、カリキュラムポリシーに基づいて必要な科目を配置した。教育の特徴である実践教育の科目を再配置した。 実践教育の科目（基礎力演習Ⅰ・Ⅱ）においては、知識や技能がどの程度身についたか自己評価する機会を設けた。 学修成果の測定方法は、学修ポートフォリオを活用することとし、引き続き検討することとした。 </td> <td style="width: 10%; text-align: center; vertical-align: middle;">3</td> <td style="width: 20%;"></td> <td style="width: 10%; text-align: center; vertical-align: middle;">3</td> </tr> <tr> <td></td> <td style="vertical-align: top;"> 2 大学の基本理念である地域協働の一環として、地域の自治体や企業などから講師を招き、特別講義や講演を実施する。 </td> <td style="vertical-align: top;"> 「公共経営演習Ⅰ・Ⅱ」の科目において、前学期に福知山市の行政職員13名を招き講義を行った。後学期は北近畿地域で活躍しているキーパーソンを招聘し、講義を行った。 </td> <td style="text-align: center; vertical-align: middle;">3</td> <td></td> <td style="text-align: center; vertical-align: middle;">4</td> </tr> </table>						①自由な発想と行動力、分析企画力、実行力、公共マインドの涵養 大学の理念の実現と発展に必要な長期的な戦略を計画し、地域に根ざし、世界に通用する高い専門能力と多角的な視点を持ち、さらに、地域社会の様々な分野におけるニーズに対応した指導的役割を果たせる人材を育成するための自由な発想と行動力、分析企画力、実行力、公共マインドを涵養する。	1 現行カリキュラムを見直すとともに、教育成果の測定方法を検討する。	現行のカリキュラムについてディプロマポリシー、カリキュラムポリシーに基づいて必要な科目を配置した。教育の特徴である実践教育の科目を再配置した。 実践教育の科目（基礎力演習Ⅰ・Ⅱ）においては、知識や技能がどの程度身についたか自己評価する機会を設けた。 学修成果の測定方法は、学修ポートフォリオを活用することとし、引き続き検討することとした。	3		3		2 大学の基本理念である地域協働の一環として、地域の自治体や企業などから講師を招き、特別講義や講演を実施する。	「公共経営演習Ⅰ・Ⅱ」の科目において、前学期に福知山市の行政職員13名を招き講義を行った。後学期は北近畿地域で活躍しているキーパーソンを招聘し、講義を行った。	3		4
①自由な発想と行動力、分析企画力、実行力、公共マインドの涵養 大学の理念の実現と発展に必要な長期的な戦略を計画し、地域に根ざし、世界に通用する高い専門能力と多角的な視点を持ち、さらに、地域社会の様々な分野におけるニーズに対応した指導的役割を果たせる人材を育成するための自由な発想と行動力、分析企画力、実行力、公共マインドを涵養する。	1 現行カリキュラムを見直すとともに、教育成果の測定方法を検討する。	現行のカリキュラムについてディプロマポリシー、カリキュラムポリシーに基づいて必要な科目を配置した。教育の特徴である実践教育の科目を再配置した。 実践教育の科目（基礎力演習Ⅰ・Ⅱ）においては、知識や技能がどの程度身についたか自己評価する機会を設けた。 学修成果の測定方法は、学修ポートフォリオを活用することとし、引き続き検討することとした。	3		3												
	2 大学の基本理念である地域協働の一環として、地域の自治体や企業などから講師を招き、特別講義や講演を実施する。	「公共経営演習Ⅰ・Ⅱ」の科目において、前学期に福知山市の行政職員13名を招き講義を行った。後学期は北近畿地域で活躍しているキーパーソンを招聘し、講義を行った。	3		4												

評価委員が記入

■法人が記入済
 【年度計画の実施状況等の自己評価（記述式）】
 年度計画の記載項目（小項目）ごとに、業務実績、当該年度計画の客観的な進行状況、その判断理由等を法人が記述。
 （業務実績報告書と同内容）

■法人が記入済
 年度計画の記載項目（小項目）ごとに、下記指標により5段階評価
 <評価指標>
 5: 年度計画を大幅に上回って実施している
 4: 年度計画を上回って実施している
 3: 年度計画を概ね実施している
 2: 年度計画を十分に実施できていない
 1: 年度計画を大幅に下回っている

●法人の自己評価と評価委員の判断が異なる場合は、その理由を記述。
 ●判断が同じ場合は、原則記述不要。ただし、特筆すべき点等があれば、評価のポイント等を記述。
 ●法人の自己点検欄の記述だけでは評価することが難しい場合は空白でも可。ただし、評価に要する質問事項を別紙「質問票」により提出すること。

年度計画の記載項目（小項目）ごとに、下記指標により5段階評価
 <評価指標>
 5: 年度計画を大幅に上回って実施している
 4: 年度計画を上回って実施している
 3: 年度計画を概ね実施している
 2: 年度計画を十分に実施できていない
 1: 年度計画を大幅に下回っている